

ゆうゆうらんどで出会う遊ぼう集まろう

静岡県牧之原市 勝間田区絆づくり事業

「ゆうゆうらんどで出会う遊ぼう集まろう」をテーマに地区の枠を超えたメンバーで

勝間田を元気にする活動を行っている。メインの活動場所である「榛原ふるさと森ゆう

ゆうらんど」の芝生化は、老若男女多くの区

民と苗作りから行い、みんなで芝生広場を

作ったという実感から公園に対する愛着が増

し、活動への積極的な参画につながっている。

季節を見える化し（花壇づくり、鯉のぼり、

七夕、夏祭り、イルミネーション等）、様々

なイベントに他地域の人が参加することでよ

テーマと計画の策定

り開かれたコミュニティ作りができています。

子どもや大人の「やりたい」を「いいね」と

実現できる力がある。子どもたちが自力でた

どり着ける場所で、気軽に参加交流できる居

場所として公園の活用、勝間田会館でフリー

ワークショップで共有された思いとして、

活動を始めたきっかけ

スペース（みんなの居場所）を実施している。

平成28年から牧之原市が、各小学校区での

まちづくり計画（地域の絆づくり事業）を策定

するため、市民協働ファシリテーターと若手

の地域住民でワークショップを各地区で実施

した。全7回の話し合いで勝間田に対する想

いが形になり参加者と区で共有されたこと

コロナ禍前の大規模イベントの成功

が、「勝間田区絆づくり事業」が動き出すき

かけとなった。

初年度の活動を実施前に勝間田小学校全校

児童130名にアンケートを取ったところ、

鬼ごっこをやりたいという意見が多数あった。

公園と勝間田山全体を使った大規模鬼ごっこ

大会「逃げるが勝ち」は平成28年2月の初回か

ら、他地域からも多くの人が訪れ、参加人数

もっと素敵に！たくさんの方が集まる公園に

したい、勝間田を元気にしたい、というもの

があった。この想いを、「ゆうゆうらんどで遊

ぼう出会う集まろう」とメインテーマ化し、

それを実現するための計画を参加者で作っ

た。グラフィックレコーディングされた計画

は8年間でほぼ実現された。



は子ども250人、高校生ボランティアや大人100人を超え、自然の山の中の鬼ごっこは大評判となった。コロナ禍前まで毎年2月に開催され、参加人数は年々増加した。食べる幸せを分かち合う昼食には手作りの豚汁うどんが1杯100円で振る舞われた。他地区の人との交流も盛んになり、地域の枠を越えて公園を盛り上げる活動になった。

芝生化で、今まで以上に「つちら」の公園になる

令和元年度、広場を芝生化するため、「芝生レンジャー」の活動を開始。市担当課と協力し、助成金を取得。地域住民を巻き込んで芝生の苗作りから始め、老若男女で植え付けを実施。その後は芝生レンジャーが毎週の芝刈りや肥料撒きなどを行う。自分たちの手で芝生化した広場は愛着がわき、イベント活動の企画運営をより積極的に実施するようになった。

令和2年度、隣接した勝間田区多目的広場も、保育園、小学校、区、グラウンドゴルフ愛好会、老人クラブと協力し苗を作り芝生化。移植後の真夏の水かけは毎日大変だったが目に見えて芝生が青々と茂っていく様は感動であった。愛称募集で「かつまーれ」と名付けられた。多くの高齢者が毎日楽しんでいますが今



勝間田山全体を使った大規模鬼ごっこ大会「逃げるが勝ち！」

後はグラウンドゴルフ以外のイベントも企画しPRしていきたい。令和4年秋には、地域の子どもたちに笑顔を届けたい志を持つ他地域団体との共催で当日エントリー制の大運動会やマルシェも開催し笑顔があふれる広場になっている。

絆の活動の多様化と深まりは コロナ禍から始まった

令和2年1月からコロナ禍での休校をきっかけに「毎日ラジオ体操」を開始。月々土までラジオ体操を継続中。雨天時や遠方からも参加できるようにLINEグループを作成し、グループ通話で各地をつないで実施してい

る。毎日顔を合わせることで、やってみたい活動についてのアイデアを出しては、「それいいね！」で「楽しい防災訓練」や「青空カラオケ」など次々と実行されていった。

また令和2年以降は大規模イベントの「逃げるが勝ち！」も、コロナ禍でも可能な開催方法を模索。令和2年は謎解きウォーク、令和3年はドッジボール大会を実施した。

公園はコロナ禍も活動拠点として機能した。アロアロ勝間田(花の会)で子どもたちと種団子を作り季節ごとの花壇を来園者が楽しんだ。令和7年度全国花のまちづくり牧之原大会でも魅力ある花壇を披露したいと計画中。

勝手にみんながそれぞれ動き出す

塗装が剥げたベンチ座面が気になったメンバ―が修理を自主的に行った。後日、市の担当課に連絡すると、材料費を出してくれた。きれいになったベンチは散歩中の人や家族連れの間際のスペースになっている。自分たちの活動拠点をより快適にするために自ら動き出す地域になっていった。

ないものは自分たちで作り出す

近所でイルミネーションスポットを作りたいとラジオ体操の時に話題に。ソーラーイル



小学生の夢を実現した青空図書館

ミネーションを購入し、メンバーで設置。クリスマスにはサンタが来園し子どもたちに光おもちやをプレゼントした。普段夜の外出などほとんどしない子どもたちは夜の公園を走り回って大はしゃぎ。毎年運営予算で買いつけ飾りつけをしている。イベント開催は学区内で子どもたちが自力参加できることが大切だと感じている。

また、「都会と違って勝間田にはハロウィンがない。ダンスパーティーをしたい」という子どもたちの意見をきっかけに、ハロウィン仮装ダンスパーティーを開催した。令和4年度は青空図書館をやりたいという4年生の夢を市立図書館、図書館友の会、子どもたちと協

働し実現した。移動図書館車が公園で本を貸し出し、芝生広場で読書や葉づくりを楽しんだ。

勝間田会館で開催される宿題やっちゃう会や、だがしや絆も児童館も駄菓子屋もないから自分たちで開いたものだ。

現在の勝間田では自分たちがやりたいと思ったことをみんなで実現させようという機運がある。

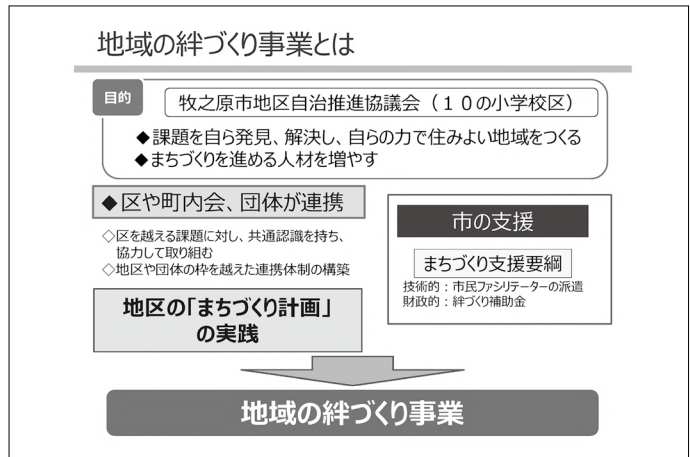
地区にもたらした影響や成果

自分たちの地域は自分たちで楽しく盛り上げていこうという気持ちで地域で共有され、自分たちの地域で楽しめる活動を行うことで、地域への愛着が増し、他地域の人が活動に参加することで他地域住民を交えたコミュニティ作りができた。「勝間田ならやりたいことが一緒にできそう」と思え、やってみよう人が集まって協力し、新たなイベントを実施するなど、人との交流が以前より活発に、より豊かな関係性が他地域との間で起こっている。

これからの勝間田区絆づくり事業

「ゆうゆうらんど」と「かつまーれ」を拠点にこれからも地域の人が集い交流することで、勝間田の未来を楽しく自分たちで育んでいけ

地域の絆づくり事業とは



「地域の絆づくり事業」とは

るような活動を、区内外の多くの人と協力して行っていく。自分たちの地域は自分たちでつくることが出来る実感を持てる地域にしたい。そのためには「場」が開かれていることが必要で、「いいね」と言ってくれる仲間がいること。宿題やっちゃう会や、だがしや絆、みちやカフェのような、勝間田会館での居場所づくりも力を入れていきたい。

(勝間田区絆づくり事業メンバー・まちづくり協働ファシリテーター・グラフィッカー

武田てるみ)